

学習内容報告書 フォーマット

学校名	秋田県男鹿市立北陽小学校
授業者	加藤秀悟他，全職員

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

ふるさととのふれあいを深め，ふるさとの自然や文化を学ぼう

1-2. 学年

全学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

生活科，理科，社会科，総合的な学習の時間

1-4. 単元の概要

本校のこれまでの取組を再構成し，それぞれのねらいを明確にして実践していく。主な内容は「サケの稚魚放流」「海岸ゴミ調査」「なまはげ学習」の三項目である。

- 1 サケの稚魚放流と遡上の観察（4月，11月 4，5年生）
- 2 身近な海の環境について学ぶ（7月，11月 4，5，6年生）
- 3 ふるさとを文化を学ぶ～「なまはげ」を生活科や総合的な学習の時間の学校テーマとし，各学年でもテーマを決めて学習を進める。

※文化財登録は「ナマハゲ」のカタカナ表記であるが，本校では地元が多い平仮名表記としている。

- 1，2年 「大好き なまはげ」（5月～3月）
- 3年生 「なまはげ博士になろう」（6月～3月）
- 4年生 「なまはげ踊りに挑戦しよう」（9～10月）
- 5年生 「なまはげ太鼓に挑戦しよう」（7月～10月）
- 6年生 「男鹿市の今とこれからを考える」（6月～10月）
- 全学年 「学習成果を発表しよう」（10月～11月，2月）

1-5. 単元設定の理由・ねらい

本学区域はかつて北前船や漁業で栄え，眼前に広がる海は人々の暮らしと密接に結び付いていた。また，ユネスコ無形文化遺産に登録された「男鹿のナマハゲ」の中心地でもあるが，ナマハゲの起源として「漢の武帝説」や「漂流異邦人説」があるなど，やはり海とのつながりが深い。このような学区の学校として，地域の海洋環境やナマハゲの伝承について学び，子どもたちにふるさとへの愛着心やふるさとに生きる意欲を喚起していく。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

本活動を通して育みたい資質や能力、態度は本校のふるさと教育の主題と共通するもので、以下のように捉えている。

- ・思いやりや生命を尊重する心、正義感や公正さを重んじる心
- ・ふるさとの自然や伝統文化の美しさや素晴らしさを誇りに思う心
- ・地域の美しい自然と伝統文化を保護し、継承しようとする態度

1-7. 単元の展開（各学年毎に実践 全5～50時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
4月3時間・11月2時間	<p>1 ふるさとの大地で育てよう 4・5年生 4月</p> <p>○野村川ふ化場の見学，サケのふ化や成長，回遊の仕組みや水産資源について学ぶ。</p> <p>○稚魚の放流体験 11月</p> <p>○サケの遡上見学，サケの産卵の仕組み，沿岸でのサケ漁について，ふ化場の役割等について講話を受ける。</p> <p>○学習をまとめる。</p>	<p>○教師による指導（事前を含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋田県の水産業の概要について ・近年の漁獲量の推移，季節毎にとれる魚の種類 ・漁業の種類等について ・見学に関わる安全指導，感染予防対策 <p>○外部連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男鹿市農林水産課担当職員による講話他 ・野村川ふ化場職員 ・男鹿市教育委員会 <p>○使用教材～水産振興課配布のパンフレット，見学振り返りシート等</p> <p>○評価 コロナ禍で活動の開催が危ぶまれたが，4月・11月ともに学習のねらいを達成することができた。</p>
7月6時間・11月2時間	<p>2 身近な海の環境について学ぶ 7月</p> <p>○男鹿海洋高校教師及び生徒から，海洋汚染の問題，男鹿半島付近の海域の漂流・漂着ごみや赤潮，マイクロプラスチックの問題等について講話を受ける。</p> <p>○男鹿海洋高校実習船に乗り，男鹿半島南側海域の漂流ごみやプランクトンの様子を見学，環境の大切さについて考えを深める。</p> <p>11月</p> <p>○秋田中央保健所職員による「海洋環境の大切さ」についての講話を受け，環境保護に関心をもち，自分たちに何ができるかについて意見交流をした。</p> <p>○学習したことを発表し合い，まとめる。</p>	<p>○教師による指導（事前を含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化や海洋汚染，マイクロプラスチックについて概要を知る。 ・昨年まで実施していた戸賀湾の漂着ごみ調査の様子を確認する。 <p>○外部連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男鹿海洋高校校長他，担当職員，実習船スタッフ ・男鹿市船川漁港 ・男鹿市教育委員会 ・秋田県中央保健所担当職員 <p>○使用教材～見学シート，保健所作成プレゼン資料</p> <p>○評価 例年6月に行っていた海上保安部と連携した戸賀湾漂着ごみ調査が中止となり，男鹿海洋高校の助けを借りての活動となった。半島南側の海域の調査となったが，児童にとっては高校生と共に活動できるよい機会となった。中央保健所から</p>

		協力を得て実施できた環境学習と併せて、予定していた以上の成果が得られた。
8 時 間	<p>3 ふるさとの文化を学ぶ～各学年の主な学習活動</p> <p>○1・2年「なまはげ大好き」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方からなまはげについてのお話を聞く。なまはげの服装、お面、話すこと他 ・なまはげ館で地域によってなまはげのお面や人数などが違うことを知る。 ・なまはげの服装「けで」の材料になっているなわをわらから作ってみる体験する。(なわない) ・なまはげマスコットを作り、柴灯まつり会場で観光客に配布。 ・なまはげ発表会を行う。 	<p>○教師による指導（事前を含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なまはげ行事やなまはげの様子，地域におけるなまはげの役割について子どもなりに理解する。なまはげは鬼ではなく，神様または神様のつかいとして昔から大事にされている。 <p>○外部との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なまはげ伝承会～講話，実演等 ・なまはげ館～見学 ・里暮らし体験塾～なわない指導 <p>○使用教材～昨年度版なまはげマスコット等</p> <p>○評価 怖くて近寄りがたい存在だったなまはげについて学習を進め，地域で大切にされていることを知った。次第になまはげに愛着をもち，身近な存在と感じるようになっていく。ねらいは達成された。</p>
50 時 間	<p>○3年「なまはげ博士になろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方から，なまはげ行事の伝承やなまはげの所作，由来などについて講話を受ける。 ・なまはげ伝承館や真山神社，赤神神社等に行き，なまはげの起源について調査をして，まとめる。 ・なまはげのお面をつくってみる。 ・なまはげの由来や所作を劇化し，学習発表会で発表する。 ・学習したことをなまはげパンフレットにまとめ，柴灯まつり会場で配布する。 ・観光客からのお手紙やメールにお礼の返事を書き，学習のまとめをする。 	<p>○教師による指導（事前を含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度版のなまはげパンフレットを見て，今年度の活動について見直しをもつ。 ・なまはげについて，知っていることやもっと知りたいこと，疑問に思うことなどを交流し，課題意識をもつ。 ・私たちの学校やなまはげ，男鹿に関することで県外から来る観光客の皆さんに伝えたいことをまとめる。 <p>○外部との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なまはげ伝承会～講話，実技指導，けで，面の借用 ・なまはげ伝習館～見学等 ・男鹿市観光課～柴灯まつりへの参加について ・真山神社，赤神神社，五社堂～見学，講話 ・男鹿温泉郷宿泊施設～パンフレット等の配置協力 <p>○使用教材～なまはげに関する郷土資料，前年度までのパンフレット等</p> <p>○評価 年間を通した大単元である。地域の力を借りて学習を深めることができ，ねらいは十分に達成できた。コロナ禍の影響で，2月の柴灯まつり会場での学習発表はできなかったが，パンフレットを持ち帰った観光客からメッセージが寄せられ，子どもたちは達成感を味わった。</p>

6時間	<p>○4年「なまはげ踊りに挑戦しよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・真山なまはげ伝承会の方からなまはげ踊りの由来を聞き、踊りを体験する。 ・なまはげ踊りを身に付け、踊りの意味や伝承者の思いなどの説明を加えて発表する。 	<p>○教師による指導（事前を含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の発表の様子を視聴し、活動の見通しをもつ。 <p>○外部との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・真山なまはげ伝承会、地域の皆さん～実技指導 ・真山神社、赤神神社の宮司～講話 <p>○評価 必要に応じて、3年生の調査活動、5年生の和太鼓演奏と一緒に活動することで効率のよい活動ができ、指導者の負担も軽減できた。コロナ禍の影響を受け、校内のみでの発表となったことが残念である。</p>
10時間	<p>○5年「なまはげ太鼓に挑戦しよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なまはげ太鼓グループ恩賀メンバーから、なまはげ太鼓の歴史や意味、特長について講話を受ける。 ・男鹿温泉郷「五風会館」に行き、実技指導を受ける。 ・校内で練習を行い、成果を学習発表会で披露する。 	<p>○教師による指導（事前を含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の発表の様子を視聴し、活動の見通しをもつ。 ・校内での実技練習指導。 <p>○外部との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なまはげ太鼓グループ恩賀、男鹿温泉郷「五風」～実技指導 <p>○使用教材～和太鼓等の備品他</p> <p>○評価 発表は学習発表会だけであったが、指導者の熱心な指導により質の高い演奏ができ、地域の方々からの評価が高かった。子どもたちの満足度も高く、ねらいは十分に達成された。</p>
15時間	<p>○6年「男鹿市の今とこれからを考える」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・真山なまはげ伝承会、菅原会長からなまはげ行事の伝承の大事さと課題について講話を受ける。 ・なまはげ行事を今後も伝承していくためにできることや男鹿の将来について意見を交流し、自分たちなりの意見を新聞にまとめる。 	<p>○教師による指導（事前を含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校の統合の歴史や男鹿市の人口減少について学ぶ。 ・自分たちの地域のなまはげ行事に関わっている人の思いについて考える。 <p>○外部との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・真山なまはげ伝承会～講話 ・雲昌寺古仲副住職～講話 <p>○評価 子どもたちは、なまはげ行事を伝承していくことの意義やユネスコ無形文化遺産に登録された経緯、携わってきた人たちの思いを知り、自分たちにできることを真剣に考える機会を得た。問題意識を強くもたせることができたことで十分に目的が達せられている。</p>

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元 「身近な海の環境について学ぶ」における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

マイクロプラスチック等の海洋ごみの問題を理解し、ごみの発生抑制や適正処理について学習し、環境保全意識の醸成につなげるとともに、「環境に配慮した活動についての意識を高める。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>1 これまで行った漂着ごみや男鹿の海の水の調査活動を想起し、気付いたことを発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国から流れ着くごみ、地域住民が捨ててしまったと思われるごみが流れ着いていた。 ・プラスチックのごみが多かった。 ・身近な海だが、海外の国々とながっていることがよく分かった。～海は、自分たちだけ（日本だけ）のものではない。 <p>2 海洋ごみの大半を占めるプラスチックの性質等について知り、環境保全に関する意識を高める。</p> <p>◎秋田中央保健所講師による講話及び実験</p> <p>(1)環境って何だろう？</p> <p>(2)身近な環境問題について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔の環境問題 ・現在の環境問題 <p>(3)海洋ごみについて</p> <p>(4)実験 いろいろなプラスチック マイクロプラスチックについて</p> <p>(5)ごみを減らすためには～3Rについて</p> <p>3 これまでの学習を通して感じた「自分たちにできること」について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみを出さない工夫3R, エコバック ・自分たちの家も水源のひとつ ・海岸クリーンアップへの参加など 	<p>○教師の指導・支援 ☆；評価の視点, 方法</p> <p>○海洋調査やごみ調査の様子の写真を掲示し, 学習への意欲付けを図る。</p> <p>☆調査して感じたことを思い起こし, 積極的に発表している。(観察, シート)</p> <p>○自分の意見を率直に表現できない児童には, 掲示してある写真を見せ, イメージをもたせるようにする。</p> <p>○講師の紹介を行い, 本時の学習をこれまでの活動のまとめとして位置付けていることを伝える。</p> <p>☆プレゼン中のクイズに積極的に回答したり反応したりしている。</p> <p>○児童から疑問を感じている様子が見付けられたら, 講師に合図を送り, 質問を受けていただくようにする。</p> <p>○すでに実践していることも含めて, 発表するように促す。</p> <p>☆一連の学習と関連のある意見交流ができています。</p>

3. 今回の活動の自己評価

7月の海洋調査から日数が経っていたので、本時を迎えるための事前準備が必要であった。しかし、保健所から派遣された講師の講話やプレゼンの内容が、児童にとっても分かりやすく充実したまとめの時間にすることができた。

外部の専門機関と連携することで学習が深まり、児童の「身近な海」という捉えのこれまでの感覚から、「世界とつながる海洋」という意識に変容していったことが大きな成果だったと言える。そして、環境保全の必要性を理解し、自分たちもその役割を担っていることの自覚が芽生えたことも収穫であった。

4. 今後の課題

男鹿半島北部に位置する本校の地理的、人的、歴史・文化的な環境を積極的に活用した有意義な学習が展開できた。新型コロナウイルスの影響を受け、海上保安部や水族館と連携した活動ができなかったり、外部講師の招聘に制限が発生したりして計画の軌道修正が難しかった。本校の場合は、来年度以降も児童数が減少し、複式学級の増、職員減が続く。このことに伴い、活動形態は複数学年共通または、全校的な活動としなければならず、計画を練り直す必要がある。

また、さらに充実した学習にするためには、子どもたちが主体的に取り組める単元を構成しなければならない。課題を自分事として捉えさせる手立てや調査や解決の方法を子どもとともに探ったりする手法を取り入れる等の工夫を講じていきたい。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

本校は、コミュニティ・スクール制度が機能しており、外部講師派遣や施設利用の面で恵まれた環境下にある。このような環境に支えられて実現できた活動であることを前提にしていなければありがたい。

※実施した単元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。